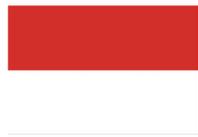


# GO



## To REPUBLIC OF INDONESIA

留学先

インドネシア共和国／ハサヌディン大学 (2023.9～2024.7)

### 生物資源科学部環境共生科学科 アクマル滯生さん

三重県鈴鹿市出身。恩師の勧めと、インドネシアの複数の大学と協定を結んでいて留学できるチャンスがありそうとの思いから、島根大学へ進学。今後は土壌の移動現象やインドネシアの農業土木に関して研究予定。

インドネシアとの友好関係が続くように尽力したい。



元々インドネシアの料理や文化に興味を持っていたアクマルさん。高校生の頃にインドネシアに行く機会があり、そこで見たのは「高層ビルが立ち並ぶ華やかな都市と、店の出入り口で物乞いをする子どもたち」。その貧富の差にとてもショックを受けましたが、「観光では気づかなかったインドネシアの実情や魅力を知りたい」と思ったのが、留学を意識し始めたきっかけ。留学先では土木工学を専攻し、土壌やコンクリートの性質に関する授業やバリでの安全セミナーに参加しました。特に、実践活動型授業で、他学部生とともに1カ月半、村で共同生活しながら地域課題に取り組んだことが強く印象に残っています。現地の友人、村の人々、ホームステイをさせてくれた先生と家族……。さまざまな出会いのなかで人の温かさに触れたアクマルさんは、将来は「インフラ整備に関わりながら、日本とインドネシアの架け橋になって異文化同士が快くコミュニケーションが取れる環境をつくりたい」と語りました。現在は「よりインドネシアの方と会話ができるように」と、インドネシア語検定B級取得を目指して勉強しています。



留学先のダンスイベント「SUL SEL MENARI」に参加し、インドネシア・トラジャ地方の伝統舞踊をステージで披露！ 現地の文化を知るだけでなく、日本語教室や子ども食堂を開催しインドネシアの子どもたちに日本文化を知ってもらう機会も設けた。(左から2番目がアクマルさん)



地域課題の取り組みで滞在していた村周辺にはコンビニや商業施設がなかったが、インドネシアのフルーツ[ランブータン]などを食べるのが楽しんでいた。(留学時の友人をアクマルさんが撮影)



# BEYOND

## 自然科学研究科(博士後期)創成理工学専攻 自然環境システム科学コース アクター ナディアさん

バングラデシュ人民共和国のシェレバングラ農科大学で農業を学ぶ。植物、食糧生産、植物科学の研究に強い関心を持ち、卒業後はバングラデシュ稲研究所で勤務。稲の研究への関心を高め、究めるため島根大学へ留学。

## From PEOPLE'S REPUBLIC OF BANGLADESH

出身国

バングラデシュ人民共和国 (2019.10～2024.9 島根大学に留学)

高度な専門性をもって地域社会に貢献し、自らも成長したい。



日本で研究指導を受けた教授を探していたナディアさんが島根大学を選んだ理由。それは「学びの目標」はもとより、自身が求める「関心のある研究」「キャリア展望」「個人としての成長」にマッチしていると感じたから。また、賑やかで都会的な場所より、穏やかな自然のある小さな都市を好んでいたこともあり「島根大学は最適でした」と話します。「研究水準だけでなく、研究設備やアットホームな雰囲気、学生と教員間の垣根のない交流など、優れた研究・学習環境が魅力です」と、実際に留学してからもその良さを存分に感じていきます。ナディアさんは、高血圧症やストレスの緩和に効果のあるギャバ(GABA)の合成に関わるイネの遺伝子を、ゲノム編集によって改変し、コメだけでなく、茎・葉・根にも増量させることに成功しました。GABAを増量したイネ苗は塩害、洪水、干ばつなどの環境ストレスに耐性を示すことを世界で初めて見出ししました。今後は「専門性をさらに高め地域社会に大きく貢献し、人としても成長し続けたい」と未来を見据えています。



「キャンパスで雪が降るのは、私にとって特別なこと」。雪が降って感じた穏やかな気持ちも、楽しく癒やしたひとときも、いとおいしく感じている。



授業終わりの秋の日に、友人たちと楽しんだ紅葉。この鮮やかな景色は、ここで感じたことや思い出とともに記憶に深く刻まれている。